

鹿児島県社会福祉協議会では、

「障害のある人が安心して暮らせる地域づくり」

を目指して、様々な事業を展開しています。

新規事業

平成21年度

障害者就労支援促進事業

技術力アップで販路拡大
みんなの頑張るを応援します

鹿児島県社会福祉協議会では県下の障害者の就労を支援するため、営業経験のある職員による販売促進の支援や木工、菓子職人の専門家が昨年10月から授産施設等を訪問し、施設が作っている商品の品質向上や技術の向上のための支援を展開しています。今号では、施設に対してどのような支援を行っているのかについてご紹介します。

技術支援

木工支援

施設の現状と課題

県内の施設においては授産品目として木工製品を製造・販売している施設は少ないのが現状です。木工を担当する指導員の力量や技能レベルは施設によって異なります。施設からは売れる商品の開発をしたいという要望が多くありました。



製作のポイントを説明

支援の内容

施設職員のレベルに応じて支援を行っています。施設によっては木工機械が整備不良状態になっている場合があり、機械の整備の仕方から着手し、木工の基本的な知識の習得のための支援を展開しました。



試作品を提案

支援の課題や問題点

木工に関する基礎知識が無いと応用した製品づくりは困難です。ケースによっては試作品を提案し、商品化も試みました。バザー等でも好評でした。



逆さにすると高さが変わる子供椅子

技術支援

洋菓子支援

施設の現状と課題

洋菓子製造に必要な機器の整備については、現在何らかの製造をしている施設と初めて取り組む施設とは状況に大きな違いがあります。施設からは利用者にも簡単にできて見栄え良く、売れる商品を支援して欲しいという声が寄せられました。

施設職員にクリスマス会の
ケーキ作りの支援



生クリーム絞り実演

支援の内容

新商品を製作し、商品化したいという施設の要望もありますが、それを具現化するためにも施設と話し合い、基礎的な技能の習得を優先し支援を行いました。



飾りつけ

支援の課題や問題点

支援においては基礎知識や基本技術の習得が最優先だと思います。また希望する商品を作りたいという一方で必要な道具が備わっていないところもあり、道具を買い揃えた施設もありました。



クリスマスケーキの完成

販売促進の支援

当事業では、営業経験のある促進員が施設職員と連携し、施設の授産品目の販売促進を行いました。販売促進に当たっては、「商品を売る」という視点から商品のPRと販路拡大に取り組みました。

販売促進の支援では、促進員2名により昨年10月から県内13の施設で1施設あたり5回程度の支援を行いました。施設側と販売促進にかける商品の選択から営業方法等の綿密な打合せを行い企業、ホテル、結婚式場、福祉施設等を訪問し、販路拡大に取り組みました。

(例：パンの製造・販売に力を入れている施設での展開事例)

パンの製造・販売を行っているA施設では、移動販売や委託販売での売れ残りによるロスの問題があり、給食等の注文販売を拡大できないかとの要望がありました。そこで、近隣の福祉施設等を中心に7施設を訪問・面談等を実施し、訪問先からは、「できるだけ協力したい」と好意的な反応も多く、実際にパンの注文も受注しました。

今回の支援活動の成果とも言えますが、今後、販路を拡大していくためには個別の支援にプラスして授産施設等を地域の皆さんに知ってもらう取り組みも大変重要だと思います。

施設からの事業に対する 評価について

施設アンケート結果から

今年度内に販売促進で12施設、技術支援(木工・洋菓子)14施設の延べ26の授産施設等を対象に支援を展開していますが、技術支援・販路拡大の支援ともに大変高い評価をいただいています。支援回数は1施設に対して平均5回から6回の支援となっており、支援期間の延長や回数の増などの要望が寄せられています。



ある施設の 感想・要望

- 今後もこのような具体的な支援をしていただくととても助かります。是非、これからも地域と連携し、障害者の方々が自立していけるような支援を共にしていって頂きたいと思います。
- 1施設ではなかなか出来ない販売促進、技術支援に大変感謝しています。施設において新しい視点で展開出来るきっかけをいただいたように思います。